SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	中村 一代	学校名	安城市立安城南部小学校
実施学年	小学校6年生	教　科	道徳科
単元名	人間のすばらしさ【D よりよく生きる喜び】 マザー＝テレサ（出典：「きみがいちばんひかるとき6」光村図書）		

≪学びを深めたいポイント≫

本時は、人間のすごさとは何かについて考える。中心発問でテレサの生き方の中にある道徳的価値を学級全体で共有するため、「テレサのどんなところがすごいのか」と問い、多面的に考えさせた。児童は、「死を待つ人の家」の設立や死を待つ人の手を握り続けたことなど、テレサの行動に着目するだろう。

そこで、行動の奥にある大本の心について考えさせるため、「なぜテレサはそのようなことができたのか」と問うた。児童は、どんな人も救いたい、誰も見捨てないという広く優しい心があるという考えをもつと予想した。そのため、「死ぬに決まっている人を助ける必要はあるか」と揺さぶりをかけた。役割演技を取り入れ、必要、不必要の両者の立場に立った話し合いをすることで、テレサの行動の意義や、そこに込められた思いについて深く考えられる。その際、「自分だったら同じように行動できるか」「自分の中のテレサ度はどれくらいか」という自分を見つめる発問を投げかけ、信念をもって行動することの難しさにも目を向けさせたいと考えた。また、「自分が死を待つ人だったらどうしてほしいか」「断った医者は悪いのか」など、別の視点から発問を投げかけることで、テレサの行動のもととなる強く美しい心の質的なよさをより深く考えられるようにした。さらに、強く美しい心がもたらすもののよさに気付くことができるよう、「テレサが死を待つ人に与えたものは何か」と問うた。そうすることで、自分自身も誇りをもち、良心に従って前向きに生きていきたいという心情を高められることを期待した。

≪SKYMENU 活用のポイント≫

本時では、発表ノートとポジショニングの機能を活用する。

発表ノート

① 本時までに事前読みをし、感じたことや疑問に思ったことを発表ノートに書かせておく。授業前に児童の思いや疑問を授業者が把握しておくことで、本時の話し合いの中で効果的に補助発問を投げかけて揺さぶることができる。

② 事前にとった「すごい人とは？」のアンケート結果のテキストマイニングとあらすじを「スライドショー」にまとめておき、本時で確認する。掲示物の作成の手間がなく、本時の時間の削減にもなる。また、話し合いで必要な時にテレビに映すこともできる。

ポジショニング

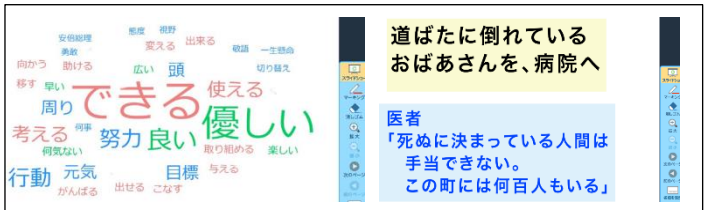
① 本時の深化発問「死ぬに決まっている人を助ける必要はあるか」について、ポジショニングする。自分の立場を明らかにし、自分を見つめさせることで、遠い世界の話を自分事として考えられるようにする。また、全員の考えを見ることで、自分とは異なる意見に耳を傾け、考えの幅を広けることができる。

② 1回目のポジショニングの結果を受け、次に、「自分が死を待つ人ならどうしてほしいか」についてポジショニングをする。1回目のポジショニングでは他人を助ける必要性の有無を考えたが、2回目のポジショニングでは、自分自身がその立場に立たされたときはどうかという別の視点を与え、温かい対応の必要性を考えられるようにする。1回目の結果と比較させることで、マザー＝テレサの行動の意義を深められるようにする。

≪実践内容≫

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	1　すごい人ランキングのアンケート結果を知り、課題を確認する。	・事前にとった「すごい人」のイメージをテキストマイニングにした結果を発表ノートで提示する。【＊1】	
	すごい人ってどんな人？		
展開	2　あらすじを確認し、マザー＝テレサの生き方について話し合う。	・発表ノートであらすじを確認する。【＊1】	・板書にかかる時間とスペースを省略し、話し合いの時間と板書スペースを確保する。 ・スラム街の道端のごみ溜めのような場所の画像をテレビに映しておくことで、状況を想像しやすくする。
	(1)テレサのすごいところを発表する。		
	(2)なぜテレサはそのようなことができたのかを話し合う。	・「死ぬに決まっている人を助ける必要があるか」についての自分の考えをポジショニングするよう指示する。【＊2】 ・「自分が死を待つ人ならどうしてほしいか」についての自分の考えをポジショニングするよう指示する。【＊3】	・自分の立場を明確にすることで、遠い世界の話を自分事として考えられるようにする。また、画面で全体の考えを共有することで、自分とは異なる意見に耳を傾け、考えの幅を広けることができるようにする。 ・自分がその立場に立たされたらという別の視点からを与えることで、温かい対応の必要性を考えられるようにする。1回目の結果と比較させることで、マザー＝テレサの行動の意義を深められるようにする。
	(3)テレサが死を待つ人に与えたものは何かを考える。		
まとめ	3 振り返りをする。		

【＊1】

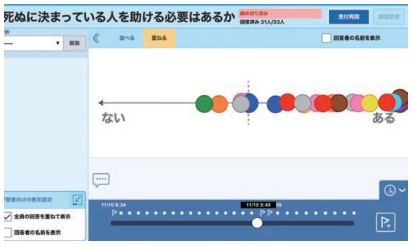


テキストマイニングの結果とあらすじの一部 【＊1】

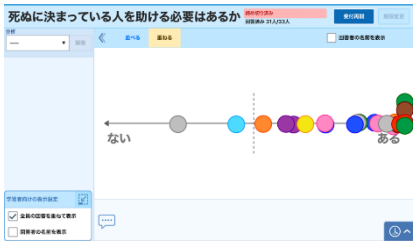
導入では、事前にとった「すごい人」のイメージをテキストマイニングしたものを発表ノートで示した。結果には「できる」と「優しい」が大きく表れており、すごい人とは、「何かをできる優しい人」であるというイメージを本学級の児童はもっていることが分かった。あらすじを確認するときは、教材の文章を事前にまとめた発表ノート提示することで、話し合いの時間を少しでも長く確保することができた。あらすじの画像は、学習活動2（2）の話し合いの際、必要に応じて提示することで、思考の助けとすることができた。

【＊2】

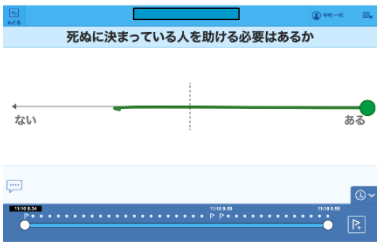
あらすじを振り返った後、今にも死んでしまいそうな人をマザー＝テレサが助ける場面を取り上げて、「助けられるすごさ」について話し合った。そして、真の問いである「今にも死んでしまいそうな人を助ける必要はあるのだろうか」と問いかけて、［ポジショニング］をした。児童は悩みながら、必要が「ある」と「ない」の軸にマーカを置いた。結果は予想していたとおり必要が「ある」側の回答が圧倒的に多く、少数の児童が真ん中よりも少し左の、必要が「ない」側にマーカを置いていた。ここで［ポジショニング］の画面を大型テレビに投影し、子どもたちと結果をじっくり見た。すると、複数の児童から「一番左（ない側）に位置する緑色のマーカの児童が気になる」「その子の話を聞きたい」という意見が出た。そこで緑色のマーカを置いた児童Ａを指名。「無駄とは言わないけれども、もっとほかに助けるべき人がいると思う。だからちょっとこっち（ない側）にした」と理由を話した。児童は「もっと救うべき人がいる」という新しい角度の意見を知り、中には「確かにそうかもしれない」と納得している子もいた。



１回目の［ポジショニング］結果【＊2】



2回目の［ポジショニング］結果【＊3】



［軌跡］機能で児童Aの変化を共有【＊3】

【＊3】

ひとしきり話し合いをした後に、ある児童が「自分だったらスラム街の道端のゴミ溜めのような場所で死にたくない」と発言した。そこで、深化発問「自分はゴミ溜めのような場所で死んでしまってもいいのか」と問いかけ、２回目の［ポジショニング］を行った。児童は問題を「自分」に置き換えて考え、マーカを移動させた。すると、児童 Ａ を含めた多くの児童がものすごい勢いで右端に移動した。それから［ポジショニング］機能の［軌跡］機能を使い、大きく動いた児童Ａの軌跡を共有した【図１】。そして、児童Ａを再び指名し、「さっき一番左だったけれど、今は一番右に行ったね。どうして？」と尋ねた。すると、「もうすぐ死んでしまうとしても、人に手を握られながら『生きていて良かったな』と思って死にたい」と言った。ほかにも気持ちが左から右へ大きく動いた児童を数人指名した。彼らも皆、「自分だったら嫌だ」と言った。さらに、「じゃあ、どうして嫌なの？」と聞くと、「誰かに見守られて、最後まで生きることが大事なんじゃないか」と話し合いが始まった。「こんなに貧しくて一人ぼっちなのに、『今まで生きていて良かった』と思って死ねるのか」「自分を受け止めてくれる人がいることを知って死ねたらいい。だから無駄ではない」といった意見が交わされた。中には、「マザー＝テレサは、人を温かい気持ちにできる。すごいことだ」と発言する子もいて、「すごさ」について、より深く考えている様子が見られた。

≪実践を振り返って≫

授業の終末、子どもたちは次のように授業を振り返っていた。

- ●ぼくは相手の気持ちを考えることができるけど、それを態度になかなか表せない。でも、それをちゃんとできる人になりたい。
- ●相手が良かったなって思える時間を与えられる人になりたい。
- ●自分にも優しい気持ちはあると思うので、そこを伸ばして少しでもテレサに近づきたい。

単に「マザー＝テレサはすごい」という感想に留まらず、自分が彼女に近づく方法を考えたり、自分の未来と結び付けて考えたりする様子が見られた。

私は、「ICT を使わなければいけない」という理由で、道徳科の授業で ICT を使い始めた教員の一人である。しかし、［ポジショニング］を使い始めてからは、教員も児童も、学級全体の意見や考えを素早く明確に把握できるようになり、今では授業を深めるためには欠かせないツールになっている。特に、［ポジショニング］の結果を児童と共有してじっくりと見る時間が効果的である。みんなで見ていると、子どもたちから「この意見はどうなんだろうか」「もっと聞いてみたい」といった意見が出てくる。そして、そこからみんなで考えを深掘りすることができる。普段はあまり発言しない児童も、ほかの児童から興味を寄せられると、発言に前向きになる様子も見られる。